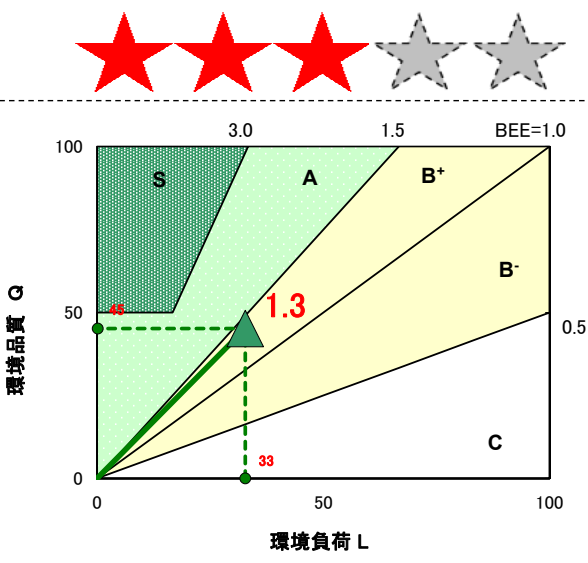


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	ミライアル(株)住吉工場倉庫棟	階数	地上2F	 <p>外観図の貼り付けは、 【外観図】シートへ貼り付けてください。</p>	
建設地	熊本県菊池市泗水町	構造	S造		
用途地域	指定無し	平均居住人員	68 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,400 時間/年		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2023年5月 予定	評価の実施日	2022年5月20日		
敷地面積	63,243 m ²	作成者	川瀬 淳子		
建築面積	7,123 m ²	確認日	2022年5月20日		
延床面積	7,859 m ²	確認者	川瀬 淳子		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.3

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

80%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

83

83

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	☆☆☆☆☆
80点以上100点未満	☆☆☆☆
60点以上80点未満	☆☆☆☆
40点以上60点未満	☆☆☆☆
40点未満	☆☆☆☆

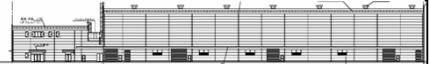
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ミライアル(株)住吉工場倉庫棟	階数	地上2F
建設地	熊本県菊池市泗水町	構造	S造
用途地域	指定無し	平均居住人員	68 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年5月 予定	評価の実施日	2022年5月20日
敷地面積	63,243 m ²	作成者	川瀬 淳子
建築面積	7,123 m ²	確認日	2022年5月20日
延床面積	7,859 m ²	確認者	川瀬 淳子



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価 **評価点 = 83**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 88.0**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 82.5**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 67.5**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 67.0**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・エネルギー消費の主要用途は内訳を把握、主要な設備の効率評価可能
- ・運用時は定期的な設備性能検証を実施予定

Q1 室内環境

- ・事務室に光を積極的に取り入れる設計
- ・窓の開放による自然換気を可能とし、空気質環境に配慮

Q2 サービス性能

- ・ゆとりある天井高とし、リフレッシュスペースを設けるなど快適性に配慮
- ・部品・部材に耐用年数の長いものを採用し、耐用性を高める設計
- ・設備・空間のプランニング自由度が高く、荷重にもゆとりある設計

Q3 室外環境（敷地内）

- ・中高木植栽による外構緑化と、敷地内の風の通り道を確保することにより暑熱環境へ配慮

LR1 エネルギー

- ・省エネルギー性能の高い設備機器採用による設備システムの高効率化に配慮

LR2 資源・マテリアル

- ・省水型便器等の採用による水資源への配慮
- ・再利用できるOAフロアを採用
- ・断熱材に発泡剤使用を回避

LR3 敷地外環境

- ・燃烧機器を使用せず、敷地内から大気汚染物質を発生させない
- ・見付面積比を抑え、隣棟間隔を確保することにより敷地外環境へ配慮

その他

CASBEE-建築(新築)2016年版
ミライアル(株)住吉工場倉庫棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									2.8
Q1 室内環境			0.33		-				2.6
1 音環境		1.4	0.15	-	-				1.4
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-				
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		2.0	0.35	-	-				2.0
2.1 室温制御		2.7	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.38	-	-				
2 外皮性能		2.0	0.25	-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		2.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		3.3	0.25	-	-				3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-				
1 昼光率	2. 5%以上	5.0	0.60	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-				
1 グレア制御		3.0	1.00	-	-				
3.3 照度		3.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		3.3	0.25	-	-				3.3
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質		3.0	1.00	-	-				
4.2 換気		2.6	0.30	-	-				
1 換気量		3.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能	窓が開閉可能な居室において、自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上	4.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御	禁煙	5.0	1.00	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				3.5
1 機能性		3.4	0.40	-	-				3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	事務室の天井高2.7m以上あり、かつ窓が設置されている	4.0	0.33	-	-				
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自販機の設置	5.0	0.33	-	-				
3 内装計画		1.0	0.33	-	-				
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い仕上げ 等	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	掃除用具の保管スペースあり 等	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-				3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	等級2相当	4.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	インバンドPro (21年以上~30年未満)	4.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	【事】床:タイルカーペット、壁:ビニルクロス貼り、天井:化粧PB 約20年	4.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			4.1	0.30	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	【事】階高:5.2m【工】階高:8.0m (3.9m以上)	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	【壁長さ比率】0.07 < 0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
			倉庫積載床用に18,000N/m ² を確保(4500N/m ² 以上)				
3.3 設備の更新性			2.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.06	-	-	5.0
			BPI _m =0.67				
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.9	0.59	-	-	3.9
			[BEI][BEI _m] = 0.71				
4 効率的運用			5.0	0.24	-	-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	レベル4に加え、主要な設備の効率評価が可能	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	レベル4に加えて、運用時の定期的な設備性能検証を実施	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
			自動水栓付き洗面器に加えて省水型機器を採用				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.20	-	-	
			再利用できるユニット部材(OAフロア)を採用				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材を使用していない	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
			ライフサイクルCO ₂ 排出率80%				
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
			敷地内において燃焼機器を使用していない				
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	種類や量の推計、分別回収のための空間整備や設備の設置 等	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 ミライアル(株)住吉工場倉庫棟

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		83
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				88	0.40	35.20
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				87	0.20	17.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.5	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数